1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700614
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会
事業所名	グループホーム さくら
所在地 （電話番号）	松阪市下蛸路町376-1 （電 話）0598-60-0068

評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日（ 水 ）

【情報提供票より】（H19年11月16日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人，非常勤 4人，常勤換算 15.25人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	58,000 円	その他の経費（月額）	12,000 円～
敷 金	有（ 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 ／ 無
食材料費	朝食 円	昼食	円
	夕食 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円		

（4）利用者の概要（ 11 月 16 日現在）

利用者人数		18 名	男性	5 名	女性 13 名
要介護1		2 名	要介護2		7 名
要介護3		7 名	要介護4		1 名
要介護5		1 名	要支援2		0 名
年齢	平均	86.6 歳	最低	78 歳	最高 99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	おおたクリニック とみやま外科内科医院 小山歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人さくら福祉会の一角にある2ユニットのグループホームである。法人理念の「共に育ち、共に創り、共に生きる」をグループホームの核として日々の事業展開をしている。保育園から出発した法人であるが、26年という実績の上にたち、今年度は小規模多機能型居宅介護事業所である「さくらテラス」も開所し更なる地域との連携強化を図っている。また、職員の質とレベルの均一を目指し、職員の個別ケアとしてOJT(On the job training評価表)評価を採用。詳細な項目チェックで自分の業務の数値化を計ることで、職員は自らの弱点に気づき、研修受講を通じて更なるケアの質の向上に努めている。その結果、業務に対する取り組み意識が高くなり、利用者と職員との関係も非常に良好となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価での改善項目は全くない。が、それに驕ることなく職員への個人ケアの形でOJT評価を実施、日々、パート職員を含む全職員が役割に応じた質の向上に取り組んでいる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** この評価だけで自己評価に取り組むのではなく、日々の活動の中で絶えず自己研鑽に活用できるように、詳細な項目にわたっての自己評価をシステム化しており、その一環として今回の評価も取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** グループホーム独自の運営推進会議は2回開催されているが、行政を巻き込んでの話し合いから、地域との防災協定の締結や終末期への対応など、更なる取り組みを深めている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 健康状態チェックシート、24時間過ごし方シートなど、数枚のシートから本人を多角的に捉えられる方式により、家族の不安への対応を図っている。苦情箱の設置や面会時の声かけ、報告でも個々の家族の意見を吸い上げているが、今後は家族会の活動に向けてより具体的行動に移していく予定である。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 夏祭りはすでに14年間の実績があり、地域の人たちの楽しみの一つにもなっている。地元消防団との地域防災協定により一時避難場所として施設の提供と開放を図るなど、地域との深いかかわりを持っているが、今後更に地元から要望のある介護研修などの実施に向けても検討中である。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念として「共に育つ、共に創る、共に生きる」ことを核とし、運営規定第45条に地域との連携と交流に努めることを掲げ、利用者の権利として地域の一員として生きることも明記している。地域に密着したグループホームであることを社会および利用者に仕事を通して共に生きることを誓っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の冒頭で常に言っているのと同時に、相手の立場を考え、してあげるのではなくさせていただく、自分のためでなく共に生きることを心に持って実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が開催する夏祭りの花火大会はすでに14年を経過、地元の人々の楽しみの一つになっており、2500人ほどの参加がある。地区の青年会などの活動費の資金源にもなるなど、地域にも潤いをもたらしている。消防訓練や文化祭などでも幅広く地域と交流を図っている。	○	住民から要望のある介護技術の研修を平成20年に開催予定であり、実現に向けて期待をしたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちが利用できる施設にしたいという思いから自己評価をスタッフ全員で検討している。評価は職員の年代の交じり合いの上にうまく活かされ、ケアの実践の取り組みに繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催されているが、グループホーム単独の捉え方ではなく、生活圏域会議として行政と一緒に進めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市社会福祉協議会評議員や市事業所連絡協議会の会長などをしていることから、行政との協力の下に当事業所のみではなく、市全体の質を上げることにも取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態チェックシートや一日の過ごし方をみる24時間シートなど、暮らしぶりが詳細に捉えられるように多角的な面からシステム化されており、状態把握が即家族への報告項目となっている。金銭管理は面会時に会計帳簿の確認をしてもらい、入居間もない方には報告書を出すなど、個々に応じた対応をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事への参加のお願いや玄関に御意見箱設置などで、家族の意見を表せる機会を設けてはいるが、運営に反映できるような家族会の活動が具体的に動いていない。	○	家族会の具体的活動がないので、みかん狩りなどに一緒に行くなど、年間行事の相談から始めたい希望があり、実現を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今年小規模多機能型居宅介護事業所を立ち上げたために多少行ったが、平素はほとんどない。利用者へのダメージを避けるために職員の希望を聞いた上で、しっかりした引き継ぎが出来るよう支援をしている。利用者の家族へは手紙で報告をしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT評価表を活用することで自分自身の仕事を点数化し数値で認識できるようシステム化しており、個別に弱点の補強や目標などを設定、職員の個々のケアプランを作成し自らの気づきで自発的に研修を受けトレーニングできる仕組みを作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は地域連絡協議会や全国高齢者研究会などでも活躍しているが、松阪市福祉サービス連絡協議会を開催し同業者との意見交換や交流にも取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学やデイサービスの利用などを通じて、アセスメントシートに書き込み、利用者の情報をとりながら家庭訪問や面会頻度を多くして、馴染みの関係を作りつつ、サービス利用に結び付けている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営者兼管理者は「働くな、本人と共に過ごせ」との見解をいつも職員に述べており、職員は利用者を人生の先輩として敬意を払いながら、その人らしい生活の流れに沿うように支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人を知るための24時間シートで利用者の意向を聞きながら、共に一日の過ごし方を決め思いや希望の把握に努めている。介護度5の人も、生活歴や家族を巻き込みながら意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「○○さんを知るためのシート」と「項目ごとの情報シート」で多角的に利用者を捉えるシステムになっており、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは全員で行い、各利用者の担当が月一度の会議で発表、そこで情報収集並びに情報の共有、家族対応など話し合い、適材適所の役割を通して現状に即した見直しを行う。モニタリングで1ヶ月に1回の見直しをすると共に、サービス担当者会議で検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院から老人保健施設へ、そこからグループホームへというように、その時々に応じて法人として連携をとり家族の要望に応えられるようにしている。他には正月元旦初詣、病院受診、買い物支援など家族のかかわりを基本としながらも、必要に応じて柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がかかりつけ医であり、定期的受診やインフルエンザ予防接種など日常の支援を得ているだけでなく、運営推進会議の委員としてもかかわってもらうなど関係を重視し、適切な医療支援に結び付けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からのターミナル希望は聞いてないが、ターミナルを迎えた人が訪問看護事業所のケアにより自立へと結びついた実績がある。職員は研修、勉強会を通じて方針と情報共有に努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パソコンの管理の徹底によるプライバシーの確保、個別の面会簿やカーテンをひく工夫、入浴の際のプライバシータオルの用意など、その人の誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートで利用者の思いを把握しており、編み物をする人やテレビ鑑賞、部屋で休むなど、それぞれの思いのままに過ごすことを支援している。シートの記録中にない突然の買い物などにも対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のパーツを組み合わせて出来上がるような料理を考え、みんなの出番をつくり、食事の準備から楽しめるように工夫している。配膳時には好みの三角巾、エプロンをつけて、食事を意識づけするなどもしている。椅子やテーブルの高さはその人の身長にあわせるなどの配慮もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	榊原温泉のお湯を運びいれ、入浴はいつでも楽しめるようになっている。夏は園芸をした後に直ぐに入れるなど柔軟な対応を心がけている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑や調理、食器洗いなど一人ひとりの得意を活かして役割を持つことが、利用者の間で自然な取り決めでできている。書道教室、編み物教室の開催で講師として活躍してもらうなど生きがい作りも支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や庭のベンチでの日向ぼっこ、プランターの花への水やり、スーパーへの買い物など、希望に応じて戸外に出る機会を多く作っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門にも玄関にも鍵はかけていないが、セコムとの契約で夜の安心を確保している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	大規模災害訓練を毎年6月10日に実施し消防署との連携を図っている。地域との防災協定を結び地域の避難場所になっている。夜間の対応は、特別養護老人施設、ショートステイ、デイサービスなど法人間のつながりがあり安心感もある。利用者の各居室には1個ずつヘルメットも備え付けてある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養ケア計画は法人の管理栄養士と相談した上、利用者に説明している。食べた量、水分摂取量など一日の目安が取れるように支援している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間にゆったりしたソファーが置かれ、雑誌なども自由に読めるようになっており、くつろげるリビングである。浴室前には坪庭からの採光と採風が気持ちよく、２ユニットは自由に行き来できる廊下でつながり、事業所全体が居心地のよい共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の住んでいた所にほぼ近いような再現に努め、箪笥の持ち込みや賞状の掲示、使い慣れた足拭きマットなど馴染んだものが持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。		